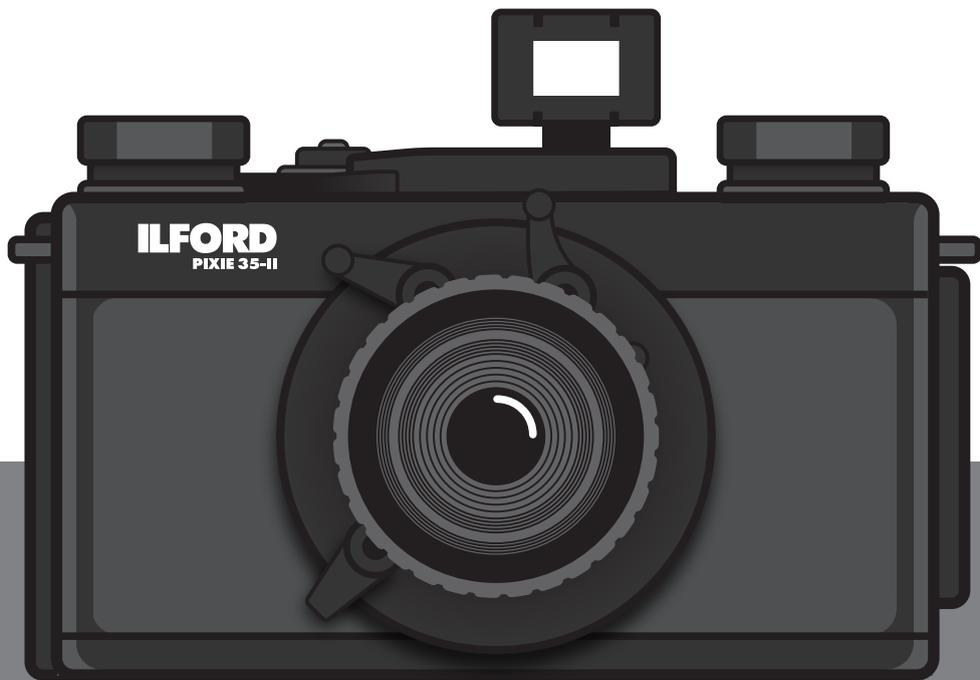


# ILFORD



## **PIXIE 35-II**

35MM FILM CAMERA

---

**USER MANUAL**

## ILFORD PIXIE 35-II – 楽しくクリエイティブなフィルムカメラ

ILFORDは1900年代初頭からフィルムカメラを手掛けてきた長い歴史があります。2021年にはSPRITE 35-IIで、シンプルかつ手頃なカメラを発売しました。

そして今回、ILFORDはPIXIE 35-IIを新たに発表します。より多くの操作を通じて、フィルム撮影を楽しみたい人向けに設計されたフィルムカメラです。

PIXIE 35-IIは、32mmの固定焦点Gakkenレンズを搭載し、絞りは f/6.4、f/16、f/100 の3段階で調整可能です。シャッタースピードは1/100秒で、バルブモードも備えており、長時間露光にも対応します。さらに、レンズを取り外してピンホールカメラとして使用することもでき、より創造的な撮影が楽しめます。

付属のハーフフレームアダプターを使えば縦位置の写真も撮影可能で、1本のフィルムから2倍の枚数を撮影できます。

絞りやピントを手動で操作できるため、初心者はもちろん、フィルム撮影に慣れた経験者にも最適です。

PIXIE 35-IIは、自由にフィルム写真を楽しめるカメラです。ぜひ、自分のスタイルでフィルム撮影を試してみてください。

ILFORD PIXIE 35-IIフィルムカメラで、ILFORD Vintage Tone 400 Plus カラーネガフィルムをお試しください。



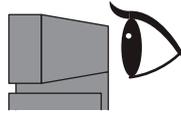
ILFORD PIXIE 35-II は、1960年代に登場した PIXIE 127 を現代の写真愛好家のために蘇らせたカメラです。

# ILFORD PIXIE 35-II

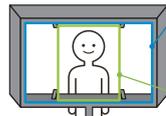
35MM FILM CAMERA

## 📷 ファインダー

のぞいて写る範囲や構図を確認できる。



【使い方】  
のぞくときはできるだけ目を近づける。



フルサイズ

ハーフサイズ

## 【写る範囲】

フルサイズで撮影するときと、ハーフサイズで撮影するときの写る範囲のちがいが。

## 📷 チャージレバー

カチッと音がするまで押し下げると、シャッターが切れるようになる。

## 📷 シャッターレバー

チャージレバーをセットするとシャッターが切れる状態になる。軽く押し下げると、シャッターが開き(1/100秒)、撮影ができる。

## 📷 絞りレバー

明るさを3段階に変えられる。



F6.4

F16

F100

F6.4  
F16  
F100

## 📷 LENS

A single lens made of plastic.

## 📷 バルブボタン

押したままシャッターを切ると、長時間露光の撮影ができる。押すのをやめるとシャッターが閉じる。

## 📷 レンズ枠

回転させて、距離(ピント)を合わせる。

	0.3	0.5
1	2	∞・P

距離目盛ステッカー。数字はピントが合う距離を表す。∞・Pは3m以上離れたものと、レンズピンホールのときに合わせる。

## 📷 三脚ネジ穴



## 📷 巻きもどしノブ

すべての撮影が終わったら、矢印の方向に回して、フィルムを巻きもどす。

## 📷 巻き上げノブ

1枚撮影するごとに、巻き上げ目盛を見ながら矢印の方向に回して、フィルムを1枚分巻き上げる。

## 📷 フィルムカウンター

最初にS(スタート)にセットすると、何枚目を撮影しているか、目盛と数字で確認できる。ハーフサイズの場合は、目盛と数字を2倍して読む。(たとえば、2のときフルなら2枚目、ハーフなら4枚目。)

## 📷 巻き上げ目盛

180度(半周)回転したときフルサイズ1枚分の巻き上げ(ハーフサイズの場合は、90度回転したとき1枚分の巻き上げ)を行う。

## 📷 DATA

- 画面サイズ：横36mm×縦24mm(フルフレーム)
- 横18mm×縦24mm(ハーフフレーム)
- シャッタースピード：約1/100秒、バルブ
- レンズの焦点距離：f=32mm
- ピンホールの焦点距離：f=30mm
- 開放時の明るさ：F6.4
- 絞ったときの明るさ：F16
- ピンホールの明るさ：F100
- 使用フィルム：35mm/ISO400(推奨)ネガフィルム

## • このカメラに使われているプラスチックの材質

ボディ・裏ぶた・裏ぶたスライド・暗箱・カウンターカバー・ハーフサイズアダプター・シャッターユニット(カバー)・ファインダー・スプール・巻きもどし軸：ABS  
レンズ：PMMA/それ以外の部品：POM

## • このカメラに使われている金属の材質

バネ：ステンレス/ネジ類：鉄

# ILFORD PIXIE 35-II

35MM FILM CAMERA

## フィルムのセット

### HOW TO CHOOSE FILM

市販の35mmフィルムを使用する。

#### おすすめ

- ISO400
- 24-36 枚
- ネガフィルム

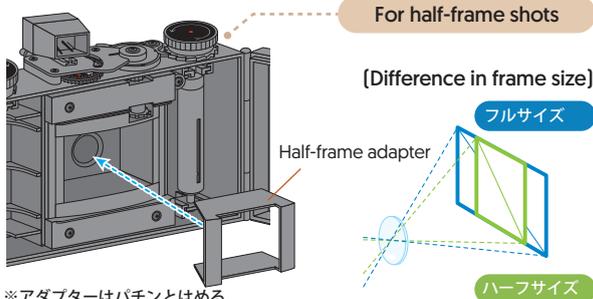


ISOはフィルムの感度で、例えば、100や400、800などがある。数値が大きいほど、感度が高く、光量が少なくても明るく写るが、粒子が大きく荒目の写真になる。現像の手間や露出寛容度を考えるとISO400のネガがおすすめ。



1

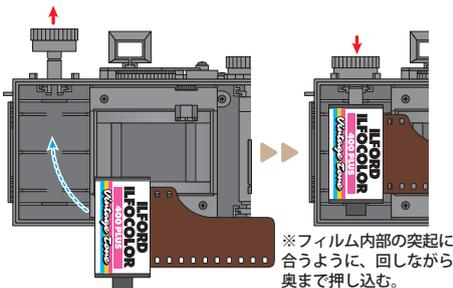
フルフレームで撮影するか、ハーフフレームで撮影するかを決める。ハーフフレームで撮影する場合は、暗箱にハーフフレームアダプターをはめ込む。



※アダプターはパチンとはめる。フルフレームは、アダプターを使わない。

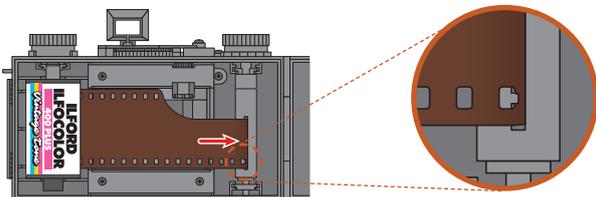
2

巻きもどしノブを上引き出して、フィルムを入れ、巻きもどしノブをもどす。



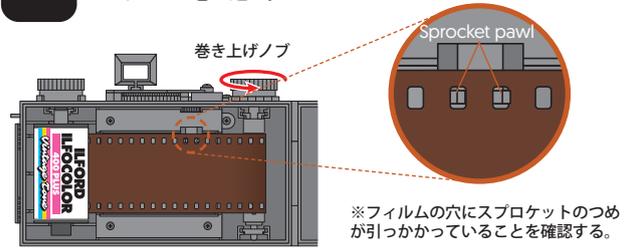
3

フィルムを引き出して、先端をスプールの穴に差し込み、フィルムの2～3番目の穴をつめに引っかける。



4

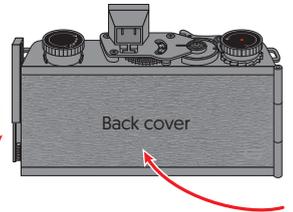
巻き上げノブを矢印の方向に2回転させて、フィルムを巻き込む。



5

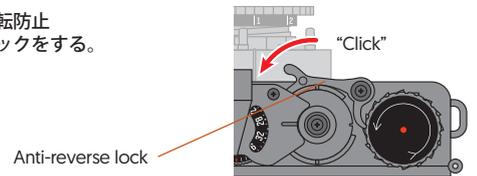
裏ぶたを開ける。

※すべて撮影が終わって、フィルムを巻きもどすまで、裏ぶたは開けない。途中、明るいところで裏ぶたを開けると、フィルムが感光して、写真が白くなってしまう。



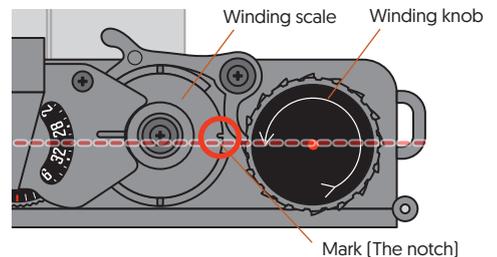
6

逆転防止ロックをする。



7

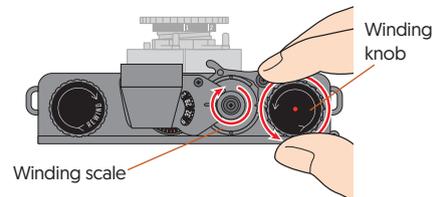
さらに巻き上げノブを回し、巻き上げ目盛を真上から見たときに、印が横になるようにする。



8

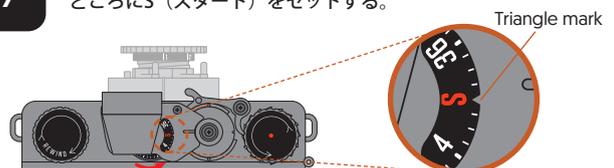
巻き上げノブを回して、巻き上げ目盛が1周回ったところでとめる。

※裏ぶたを開ける前に感光してしまった部分のフィルムを巻き取ることで、感光していないフィルムがセットされる。

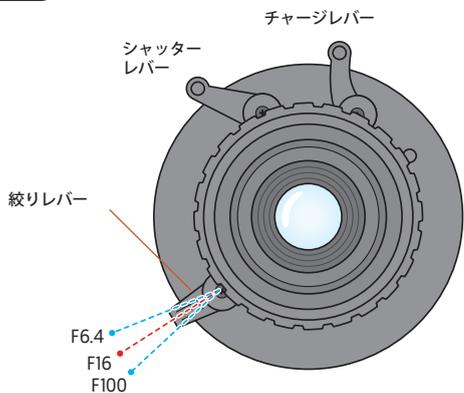


9

フィルムカウンターを回して、三角印のところにS (スタート) をセットする。

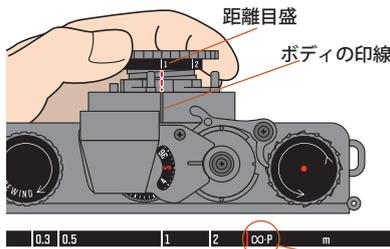


**1** 絞りレバーを動かして、絞りを選ぶ。



絞り	F6.4	F16	F100
穴の大きさ			
光量			
ピントの合う範囲	せまい		広い

**2** レンズ枠を回して、被写体までのだいたい距離に、距離目盛とボディの印線を合わせる。



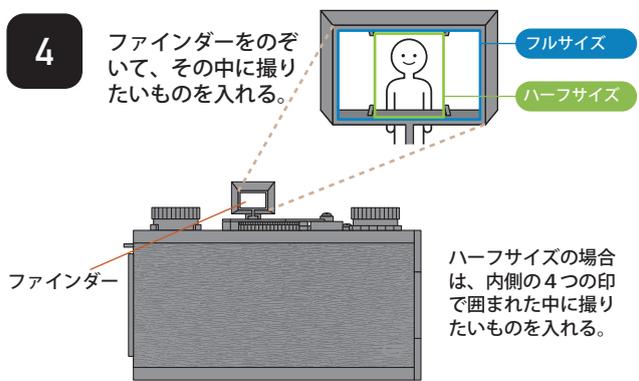
∞ (無限遠) ・ P : 3mよりも離れているところ (無限距離) と、レンズピンホールで撮影するときに合わせて。

0.3~2m : ピントがちょうど合う距離。

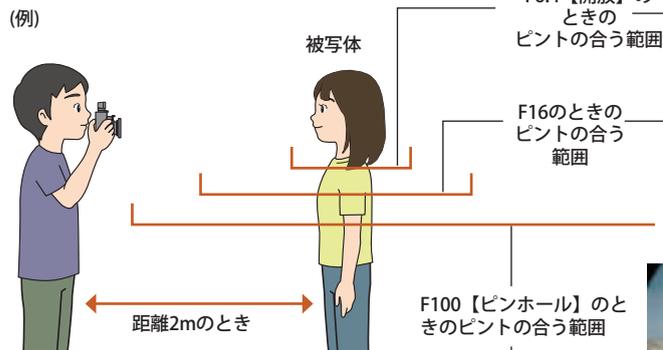
**3** チャージレバーを下げる。



**4** ファインダーをのぞいて、その中に撮りたいものを入れる。



### APERTURE & FOCUS



レンズ枠を回して、被写体までの距離にセットすると、被写体にピントを合わせることができる。そのとき、絞りのF値によってピントが合う範囲が変わる。

F100【ピンホール】やや甘い、近くから遠くまで、全体的にピントが合う。



F6.4【開放】明るく、中心部にピントが合う。周辺が強く流れる。



F100【ピンホール】少し暗いが、ピントの合う範囲が広い。周辺はやや流れる。

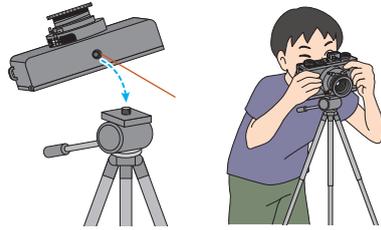
\*写真はレンズピンホール

5

シャッターレバーを上げて、撮影する。このとき、カメラのボディをしっかりと持って、動かさないようにする。

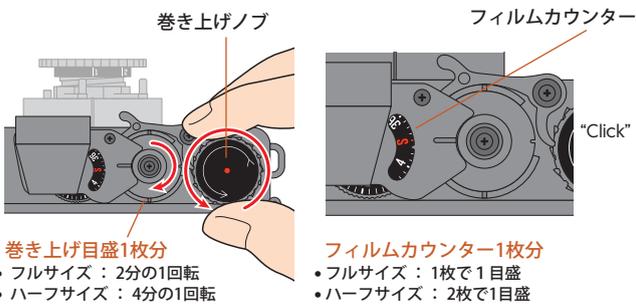


撮影するときに、カメラが動いて、ブレしてしまう場合は、三脚に取り付けて固定するとブレをおさえることができる。



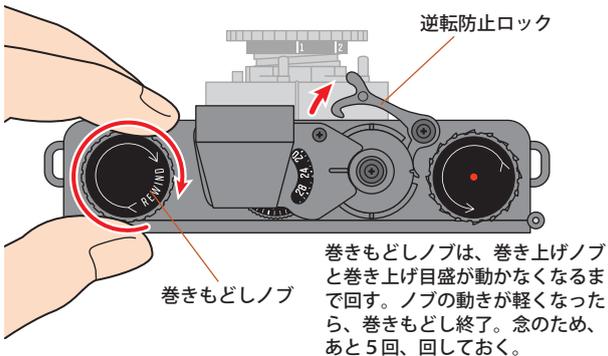
6

1枚撮影したら、巻き上げノブを回して、巻き上げ目盛が半周（ハーフフレームサイズの場合は、4分の1周）回ったところでとめる。



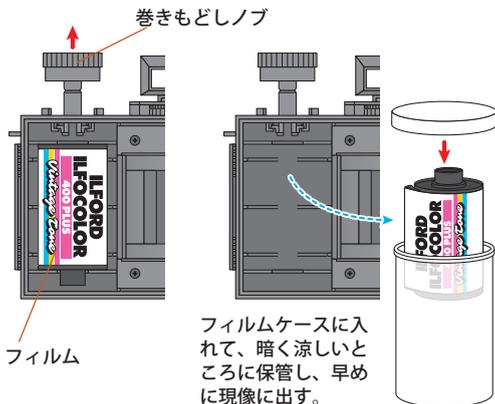
7

巻き上げノブが回らなくなったら、フィルムの終わりなので、逆転防止ロックを外し、巻きもどしノブを矢印の方向に回してフィルムを巻きもどす。



8

裏ぶたを開けて、巻きもどしノブを引き上げる。フィルムを取り出す。



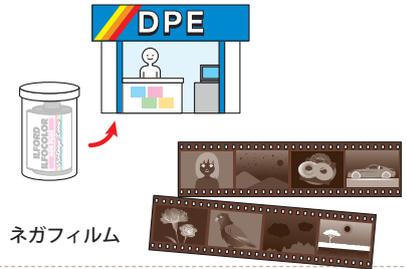
# DEVELOP FILM!

## 現像

フィルムをDPE店で現像（Development）、プリント（Printing）、引き伸ばし（Enlargement）してもらおう。

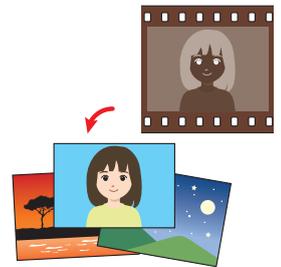
### 1 現像

フィルムを現像する。



### 2 プリント・引き伸ばし

ネガフィルムから、プリントする写真を選び、希望の紙のサイズに合わせて、引き伸ばしてプリントしてもらおう。

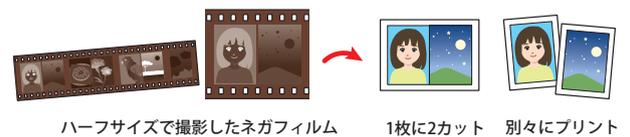


Print size examples



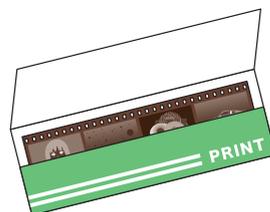
ハーフサイズで撮影した場合は、そのことを事前にお店に伝えて、プリント方法を相談するとよい。

ハーフサイズのプリント例



ネガフィルムから直接画像データにして、スマートフォンにダウンロードできたり、CD-ROMで受け取ったりするサービスもある。

スマートフォンでダウンロード



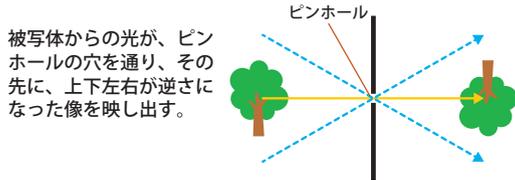
ネガフィルムは保管しておき、プリント・引き伸ばしたいときは、DPE店に持って行く。

レンズなしとあり、2種類のピンホール写真が撮れる。

レンズなしピンホール写真  
(バルブ1秒)



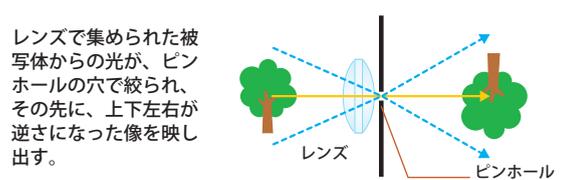
遠くと近くに一樣にピントが合うやわらかい調子の写真になる。



レンズありピンホール写真  
(バルブ1秒)



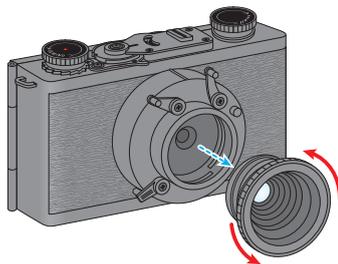
レンズがあると焦点距離が変わり、少し寄った明瞭な写真になる。



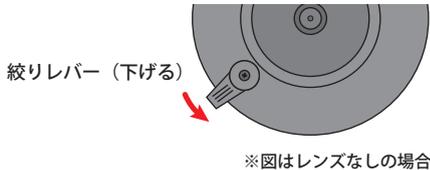
ピンホールでの撮影は、絞りが小さく、光を取り込む量が少ない。明るく撮るためには、バルブ機能を使って、露出時間を長くする必要がある。バルブ機能は、シャッターを開きっぱなしにすることができ、好きなタイミングでシャッターを閉じることができる機能。

## 1 レンズのなし・ありを選ぶ

レンズなしの場合は、レンズ枠を半時計まわりに回して取り外す。途中かたいところがあるが、力を入れて回す。レンズありの場合は、距離目盛を「∞・P」に合わせる。

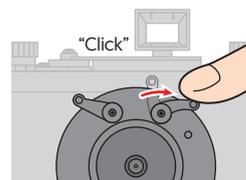


## 2 絞りレバーをF100ピンホールにセットする。

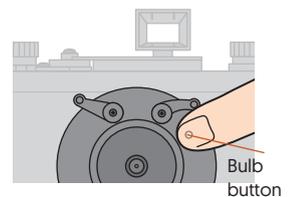


## 3 バルブ機能の使い方

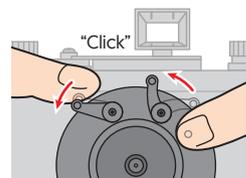
### 3 チャージレバーを下げる。



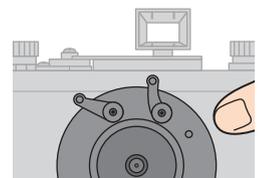
### 4 バルブボタンを押しながら…



### 5 シャッターレバーを下げて撮影する。

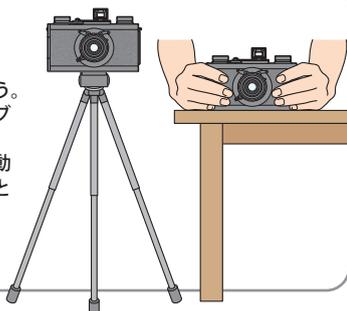


### 6 バルブボタンをはなす。



## 📷 プレを防ぐために

長時間露光するときは、撮影中カメラを固定しましょう。カメラが動いてしまうと、ブレた写真になる。三脚に固定したり、台の上に置いて動かさないようにしたりするとブレを防ぐことができる。



露出時間の目安 (レンズありピンホールの場合)

☀️ 晴天 1/2秒

☁️ くもり 2秒

カメラと被写体の  
距離 (m)

0.3

0.5

1

2

絞り F6.4

開放はピントの合う幅が狭いので、カメラと被写体の距離は距離目盛の通りにするとよい。

絞り F16

被写界深度が深いので、被写体との距離が前後にずれてもある程度ピントが合う。

絞り F100

レンズ：ピンホール+三脚

被写体との距離に関係なく、一様にピントが合う。



ピントの合う範囲

ピントの合う範囲

ピントの合う範囲

## レンズ収差について

このカメラのレンズは収差（ずれやゆがみ）が発生する。収差のあらわれ方を知っておくと、効果的な写真を撮影することができる。



F6.4

ピントが合うところ

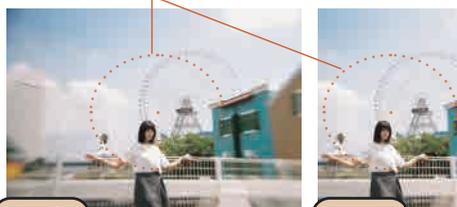


画面の中心に一番ピントが合う。周辺は強く流れる。ハーフにすると周辺の流れがカットされ、画質がよくなる。



F16

ピントが合うところ



周辺は流れるが、開放よりピントが合う範囲が広い。ハーフにすると周辺の流れがカットされ、画質がよくなる。

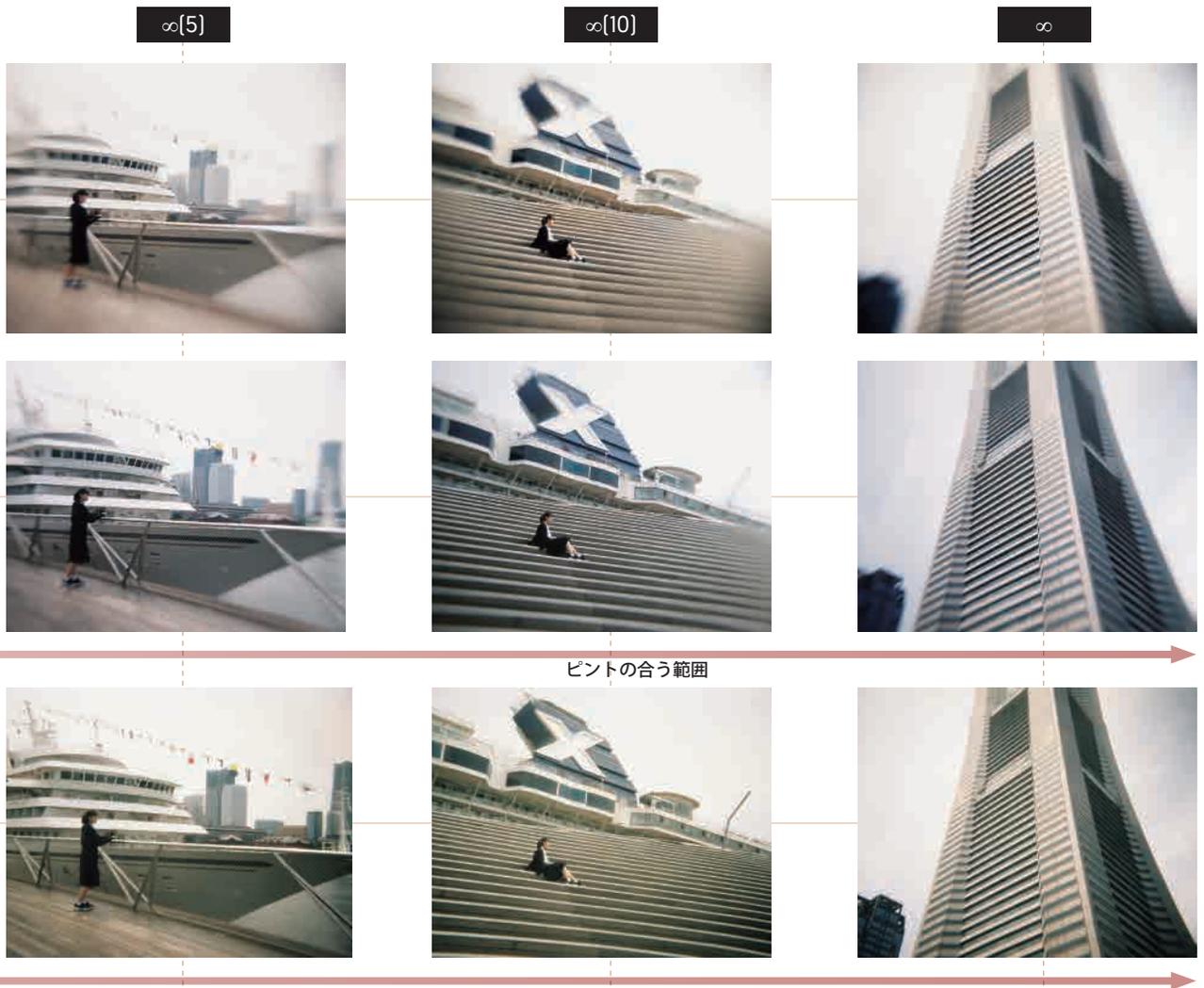


F100



画面全体に一様にピントが合うが、やや甘い印象になる。（パルプ1/2秒）

カメラと被写体の距離は距離目盛に合わせるのが基本。但し、F16はある程度被写界深度が深い（ピントの合う幅が広い）。F100レンズピンホールは距離が近くても遠くてもピントが合う。下の作例を参考にしよう。



## 光量について

晴れと曇り、屋外と室内では明るさが異なる。絞りとバルブ機能を上手に使うと、暗いところでも印象的な撮影をすることができる。

	晴れ	明るい室内	夕方	夕方	夜
F6.4 開放					
F16					
F100 レンズピンホール					
	晴れの日はF16がおすすめ。開放F6.4でも写せる。	室内でも明るい窓際なら開放で写せる。	シャッターでは開放にしても写りにくい。三脚を使用してバルブを活用すればきれいに撮れる。		シャッターでは写らない。三脚を使用してバルブで撮ろう。止まっているものははっきり写り、動くものは光跡として写る。

## 写真表現の作例

フィルムカメラならではの作例を紹介。二重露光（フィルムを巻かずにシャッターを2回切る）や長時間露光（バルブ撮影）を試してみよう。



二重露光

・F16・シャッター2回・三脚使用

フィルムを巻かずにシャッターを2回切ることでももしろ写真ができる。



長時間露光

・F16・バルブ30秒・三脚使用

走る車のヘッドライトとテールライトの光跡が線として写る。



スローシャッター

・F16・バルブ3秒・三脚使用  
動くものをスローシャッターで写す。



シャッター1/100秒



ミニチュア

・ピンホール・バルブ1/2秒・三脚使用

手前から背景まで同じようにピントが合う。  
わずか7センチのミニカーが本物のように見える。

## Q&A

**Q** フィルムが正しく巻き上げられているか心配です。

**A** 巻き上げのときに巻きもどしノブが回るかどうかを確認しましょう。\*パトローネの中のフィルムがゆるんでいる場合は回らないことがあります。巻きもどしノブを矢印の方向に回してゆるみを取ってから確認すると良いでしょう。

**Q** 撮影が終わって巻きもどしをしたが、巻きもどしが完了しているか不安です。

**A** 巻きもどしノブを矢印の方向に回して、カチカチ音がする、巻き上げノブが回るという場合はフィルム巻きもどしが完了していません。巻きもどしノブの回転が軽くなり、巻き上げノブが回らなくなったことを確認してから裏ぶたを開けてください。

**Q** フィルムを巻き上げたかどうか忘れてしまいました。

**A** 撮影したら巻き上げる、または撮影前に巻き上げるという手順を決めて撮影しましょう。二重撮影を避けるためには、わからなくなってしまったときには、念のため1枚巻き上げてから撮影しましょう。

**Q** シャッターで撮影したのにブレてしまった。

**A** このカメラのシャッタースピードは約1/100秒ですが、カメラをしっかり構えていないとブレることがあります。両手でカメラを構え、脇をしめて、ゆっくりシャッターレバーを操作しましょう。

**Q** ファインダーをちゃんと見て合わせたのに構図がずれていました。

**A** レンズとファインダーは位置が離れているので撮影距離が近いほどずれが生じます。余裕をもって撮影距離をとりましょう。

**Q** 画面の片側の隅が黒くなってしまいます。

**A** 絞りレバーが正しい位置にない可能性があります。不安な場合はレンズ側からのぞいて、絞りが中心にあるか確認しましょう。

**Q** レンズピンホールで撮影したら四隅が黒くなってしまいます。

**A** レンズピンホールで撮影するときは撮影距離にかかわらずピント位置を∞・Pに合わせてください。近距離に合わせて撮ると周辺がケラれることがあります。

**Q** レンズピンホールで撮影したら大きいゴミが写っています。

**A** レンズピンホールはすべての距離にピントが合うのでレンズにゴミが付着していても写ってしまいます。撮影前によく確認しましょう。

**Q** フィルムを入れた状態で裏ぶたを開けてしまいました。

**A** 撮影済みのコマは感光してしまいましたが、パトローネに入っている部分は大丈夫です。残り枚数があれば続けて撮影は可能です。

**Q** フィルムを入れっぱなしで長期間放置しても大丈夫ですか。

**A** カメラ内は遮光されていますが長い期間光にさらされると感光が進んでしまうことがあります。暗所に保管し、なるべく早めに撮り終えて現像しましょう。

**Q** プリントしたが思ったような色に仕上がりません。

**A** そんなときはネガを確認してみましょう。写っているものが濃すぎて確認できない、薄すぎてよくわからないような場合にも写真店でもらってプリントしてくれますが、正しい色、正しいコントラストでは再現できない場合があります。濃すぎる場合は露出オーバー、薄すぎる場合は露出アンダーです。経験値は次回の撮影に生かし、適正露出になるように工夫してみてください。

\*パトローネ：35mmフィルムが収納された金属製の遮光筒のこと。

## 重要な注意事項

- カメラを使用する前に使い方と注意をよく読んでください。
- 安全のため、ここに書かれている使い方を必ず守ってください。
- 使用中に破損、変形してしまった部品は使用しないでください。
- 落としてショックを与えたり、水に濡らしたりしないでください。
- 火気や熱源の近く、自動車のダッシュボードなどの高温になる場所や、湿気の多い場所に放置しないでください。
- レンズを通して太陽を絶対に見ないでください。目をいためるおそれがあります。
- 内部に水や砂、ほこりなどが入らないよう注意してください。
- 撮影するときは、人や自動車の往来、足元などの周りの環境に十分気をつけてください。
- カメラを使用しないときは小さなお子さまの手の届かないところに保管してください。

## イルフォードについて

1879年に創業したイルフォードは、世界で最も歴史ある写真用品ブランドの一つです。145年以上にわたる輝かしい歴史の中で、イルフォードは、アナログフィルム、プリント用感材、現像液といった長い歴史を持つ製品から、最新のフォトプリンター用高品質インクジェット用紙まで、常にプロフェッショナルレベルの品質を提供してきたことで知られています。

ILFORDおよびILFORDロゴは、ILFORD Imaging Europe GmbHの登録商標です。

PIXIE35-IIカメラ、VintageTone 400 Plus カラーフィルム、そしてILFORD製品全般に関する詳細については、[www.ilford.com](http://www.ilford.com)または[www.ilford.co.jp](http://www.ilford.co.jp)をご覧ください。

ILFORD Imaging Europe GmbH  
Buchholzstraße 79  
51469 Bergisch Gladbach  
Germany  
[contact@ilford.com](mailto:contact@ilford.com)

ILFORD PIXIE 35-IIIは、株式会社Gakkenの協力でお届けする製品です。

ユーザーマニュアル 構成：ことり社 イラスト：内村祐美 写真：前田保典

**ILFORD.COM**